



## ～ 世界アルツハイマー月間の取組 ～

9月はアルツハイマー月間となっており、各所で多くのイベント等の啓発活動が実施されました。

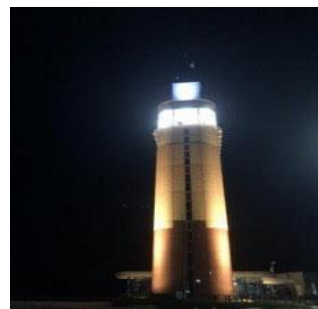
### － 舞鶴市・綾部市での啓発活動 －



田辺城ライトアップ



綾部市立図書館での展示



五老スカイタワー  
ライトアップ

9月3日(土)には舞鶴市赤れんがパークにおいて、写真家・若年性認知症当事者の下坂厚氏による写真展・トークショーが開催されました。下坂氏は、2019年に若年性アルツハイマー型認知症を発症され、現在はケアワーカーとして介護施設に勤めながら、当事者だから見える世界をレンズ越しに発信し、講演会などで認知症の啓発活動をされておられます。「明日への希望を忘れない!～記憶とつなぐ～」のメッセージを込めた写真に、来場者からは「素敵な写真でした」と言った感想が多く寄せられました。



## ～ オレンジロードつなげ隊の啓発活動 ～



綾部市内の複合商業施設における  
街頭啓発活動の様子(2022年9月)



舞鶴市内の複合商業施設における  
街頭啓発活動の様子(2022年9月)

9月21日(水)には各市内の商業施設街頭において、3年ぶりにチラシ配布等による認知症啓発活動を行い、多くの方が手に取っていただきました。また市民の方々からは「自宅で介護しています」・「自分もこの歳になり心配していますので参考にさせていただきます」などのお声を掛けてくださる方が多数ありました。〈管内各庁舎ではポスター等の展示・のぼり旗の掲示〉

### ☆在宅医療推進啓発映画上映会での啓発活動

11月12日(土)綾部市ITビルにおいて、綾部医師会主催の在宅医療推進映画「ピア～まちをつなぐもの～」が上映され、会場前におきまして参加者の皆様にチラシやパンフレット等の配布による啓発活動をさせていただきました。映画は在宅医療や最期の看取りなどを描かれた内容で、参加された方々も展示された在宅医療等の案内や、最期の看取りなどのパンフレット等を手に取って興味深く見られておられました。



# ～ 認知症家族支援ガイドの紹介 ～



## 目次

● 本ガイドの使い方		1
1 認知症を理解する	① わたしの認知症	2
	② 認知症と診断されるまでに	4
	③ 認知症の種類と診断治療	5
2 認知症とくらし	④ 認知症の症状と日常生活の工夫	8
	⑤ 診断されたあとの認知症の人の仕事	11
	⑥ 認知症のひととの接し方と介護のコツ	13
	⑦ その人らしく最期まで	16
3 家族のくらし	⑧ 家族が無理をしない介護をする	17
	⑨ 介護中も楽しむ	22
4 困りごと	⑩ 困ったときに相談できる場所リスト	24
	⑪ 車の運転と認知症（認知機能の低下）どうすればいい？	28
5 家族への支援	⑫ (座談会) 家族が望む支援	30
	⑬ 家族支援とは、好事例を紹介	35
	⑭ 認知症の人の家族へのメッセージ	37
● 「道」としてのかかわり	いずれくる道、ともに生きていく社会へ	40
● 認知症にかかわる全国組織の団体		42
● 認知症の人と家族の会 支部の電話相談一覧		44

「認知症の人のご家族へ」 認知症のある生活に備える手引き（認知症家族支援ガイド）が公益財団法人認知症の人と家族の会から発行されています。

ご希望の方は「認知症の人と家族の会」のHP(<http://www.alzheimer.or.jp>)からダウンロード又は希望部数の配布を行なっております。

## オレンジロードつなげ隊 隊員紹介 No.10



舞鶴市  
笹原 和夫

昨年度まで、中丹東保健所で認知症対策を担当していました。

家族が認知症になったとき、「何とかこのままの状態を保ってほしい。」と願っていましたが、少しずつ進行していき、最後は医療機関や施設で看取りをしていただいたことがあります。

認知症になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられ、当事者の方の希望が少しでも叶えられる社会が実現できるよう、微力ながらも活動していきたいと思っています。

オレンジ色のTシャツ・ジャンパーを見かけられたら、ぜひお声かけください。



舞鶴市  
野田 治

私は、「グループホーム真愛の家恵の里」という介護事業所に勤務しています。グループホームには、認知症を患われたご利用者が生活しておられます。

数年前までは在宅介護にも携わっていました。住み慣れた地域での生活が続けられることは良いことですが、今までできていたことができなくなってしまった中での生活は、大きな不安となっています。

ご本人とご家族だけでなく、地域の方のご理解とご協力がどうしても必要だと実感しました。

オレンジロードつなげ隊の活動に参加させていただくことで、認知症を患われた方とご家族、地域の方々に少しでも役に立てればと思っています。

### － 編集後記 －

新型コロナウイルス感染者数が横ばいの状況下で、生活環境も少しずつ変化しつつ、いつしか日々の感染者数が誌面の隅に追いやれ、気持ち的に薄れ始めています。しかし認知症と同じで、私達は忘れてはいけないことなのです。認知症の方が外出する機会が増えて行方不明になる事案とつながっています。

私たちは少しでも多くの人に、正しく認知症を理解していただくために、啓発活動は今後も続けていきます。

《編集担当班》

発行：中丹東オレンジロードつなげ隊

【事務局】



保健課

中丹東地域包括ケア推進ネット  
中丹東オレンジロードつなげ隊

心でつなく、地域でつなぐ  
“認知症”

認知症になっても安心して暮らせる  
社会の実現をめざしています